

戸田康之さん『コンビニ店員』（6月5日配信）

こんにちは！戸田です。よろしく。

今日は、コンビニの店員が手話をなぜ覚えたのかについてお話します。

私はろう学校で先生をしています。学校まで電車で出勤しています。最寄駅から学校まで徒歩10分。これが毎日の出勤方法です。歩いている途中にコンビニがあります。そのセブンイレブンに毎朝寄って買い物をします。コーヒーやお菓子など、毎朝何かしら買い物をします。

以前と違い、袋の購入の確認をされるなど店員とコミュニケーションを図る必要があり大変です。同じコンビニでもローソンは、袋やお箸などの有無を指差して伝えるものが準備されています。スターバックスも同じようなものがありますが、セブンイレブンにはありません。そのため、毎朝いく度に袋という手話を表現し続けました。朝のバイトの店員はいつも同じ人です。そのため、繰り返し私が袋と表現し続けた結果、どの店員も私が言う前に店員から袋と表現してくれるようになりました。

私が手話を教えたわけでもなく、繰り返し表現し続けただけで自然と覚えて表現してくれます。ろう学校の近くのコンビニのため、学生も使用します。学生から店員が袋と言ってきたと報告され、特に教えてない。毎朝繰り返し表現しただけで自然と覚えてんだと伝えました。すると、わざわざ教えるのではなく、相手がわからないとしても表現し続けると覚えてくれるんだと気づいたようです。

自分の言語である手話を表現し続けることで自然と周りが吸収してくれるのは良いことです。ありがとうと毎日表現すれば覚えてくれるかもしれません。店員が覚えてくれると嬉しいですね。相手が手話を知っているかどうかは関係ありません。自分の言語である手話を表現し続けることで広まっていくきっかけになれば良いと思います。